

◎ 彙 報

第一六回 原爆文学研究会・公開シンポジウム

- 日時 二〇〇五年九月一六(土) 一三時より
- 会場 九州大学六本松キャンパス本館・第一会議室
- 基調講演

原爆をどのように語りうるか

—— 原爆を描くこと、受容することをめぐって

小沢 節子

「原爆被害」をめぐる表象・闘争の場

—— 日本政府の被爆者対策と被団協・在韓被爆者運動から

直野 章子

後日談としての長崎原爆文学—— 女性視点と日常性——

田崎 弘章

第一七回 原爆文学研究会

- 日時 二〇〇五年二月一〇日(土) 一三時より
- 会場 広島大学東広島キャンパス教育学部A棟一〇三号室
- 研究発表

原爆を表象する典型をめぐって

—— 被爆の経験とどのように出会い、出会わないか——

畑中 佳恵

栗原貞子論—— 原民喜との比較を中心に——

水島 裕雅

第一八回 原爆文学研究会

- 日時 二〇〇六年三月二五日(土) 一三時より
- 会場 九州大学六本松キャンパス大学院棟一〇一号室
- 研究発表

「東海道戦争」と「となり町戦争」

—— 手もとから始まる戦争

内田 友子

原爆文学とルポルタージュ—— 方法をめぐって

楠田 剛士

第一九回 原爆文学研究会

- 日時 二〇〇六年七月一五日(土) 一四時より
- 会場 九州大学六本松キャンパス大学院棟一〇一号室
- 研究発表

原爆と恋愛

—— 大田洋子「人間檻樓」の行方から検討する——

亀井 千明

科学としての原爆

長野 秀樹